

# 「権力当局へのたれこみは当然だ」と 居直る『本部』反動分子！

## 日刊 動労千葉

80.7.29 No. 494

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二二五八・九（公衆）四三三三・二七二〇七

### 追及・説得行動を更に強め、『本部』にゆるめ、 『再建』デッチ上げ策動を粉碎しよう。

二回にわたる「再建千葉地本」デッチ上げ策動に失敗した「本部」反動分子は、ついに「業務再開」などといひだして「再建」策動の完全な失敗を自らしふしぶと認め、ますます追い込まれている。  
しかし、何としても動労千葉を破壊せんと策動する「本部」反動分子は、動力車新聞「号外」において「反社会的ゴロツキ集団」なる権力用語を公然と使用し、「警察や当局にたれこみのは当然だ」などと居直っている。  
こうしてますます権力・当局に身をすり寄せ、動労千葉への弾圧を要請する「本部」反動分子を絶対に許さず、さらに、糾弾・説得・追及行動を展開しよう。

#### 「警察や当局にたれこむのは当然だ」（裏切り分子）！

津田沼支部における追及・説得行動の中で「本部」反動分子は、「昨年の4・17での暴力は当然」などと片岡支部長への頭蓋骨折の重傷をはじめめあらんかぎりの暴力行為について公然と認め居直っている。

そして逆に「職場内での暴力は、当局や警察にすぐたれこむ」などといって動労千葉の糾弾・説得・追及行動に対しては、マル生分子のコロビ屋よろしくすぐにびよろびよろとよろけて「動労千葉の暴力」をデッチ上げ当局や権力にたれこみ、処分をしっかりと要請するのである。

われわれは、こうした「本部」反動分子の権力・当局へのたれこみ路線が、戦闘的階級的「動労」などという一切の労働者の感性をなげすめた、権力・国鉄当局一体となった動労千葉破壊の攻撃であることをはっきりと見据えなければならぬ。

従って、「本部」反動分子をめざす「再建千葉地本」デッチ上げ策動が、動労の地方本部の一つとして、「再建」しようとしているのではなく、文字通り動労千葉破壊のみを目的とした組織として「再建」デッチ上げしようとしているのだ。乗務員運用合理化、五五・一〇ダイ改を大きな突破口とする国鉄三五万人体制攻撃に率先協力する動労「本部」。

反対同盟農民をはじめ全国の闘う労働者・人民と固く連帯して鉄路を武器に三里塚ジェット闘争を闘い抜くわが動労千葉に対し、権力・国鉄当局一体となって組織破壊・解体の攻撃をしかける動労「本部」。

めとするありとあらゆる暴力を行使し、権力・国鉄当局に対し弾圧・処分を積極的に要請し、たれこむ動労「本部」を絶対に許すことはできない。  
追及・説得行動でますます追い込まれた「本部」！

津田沼事務所（三信ビル）と直結した嶋田、斎藤（吉）、など一部反動分子は、津田沼支部の大衆的な連日にわたる説得・追及行動に対し、居直っている。しかし、短期転勤者の多くは、「動力車新聞号外」はあやまりだ」とか、嶋田をはじめ、三信ビルの「幹部」に対する不満や不信・不平を口々にいい出している。

6・28、7・5の二度にわたる「再建」デッチ上げ策動の失敗が彼ら「本部」派内部の不統一・対立にわたったことは、すでに公然となつていいる。そして、その後連日にわたる追及・説得行動によって彼等内部の対立がますます進み、一部反動分子と三信ビルは、ますます追い込まれているのである。

彼らは、「業務再開」などと動労の規約・規則を無視し、全くのデタラメとペテンをもってなんとか全国の動労組合員の目をごまかし、何よりも津田沼・佐倉の組合員をペテンにかけ、実体的ない「再建」をデッチ上げようとしているのだ。われわれは、この間の自らの闘いの正義性と正当性に自信と確信を一層強め、彼らに対するさらなる糾弾・説得・追及行動を強め、ますます一部反動分子を孤立化させ、追いつめよう。

